

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

527-580

事務事業名	道整備交付金事業(総括表)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	土木課		包含する細々目	1	8	2	3	11	7	240,000
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり											
施策	44 交通機関と道路の充実											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条列等		地域再生計画				
		事業期間	17	年度～	21	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	通過車両 (対象指標と数値は総括表参照)	自動車交通量(台/日)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			17181			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	便利で安全に移動できる。(成果指標数値は総括表参照)	改良率(%) = 改良済み延長 ÷ 計画延長 × 100	18目標	18.4	最終目標	
			18実績	46.7	19目標	75.7
			23目標		23実績	
			18目標		最終目標	
			18実績		19目標	
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・地域再生計画に基づいて地域の活性化に向けて道路改良・舗装工事等を実施。 飯田514号線(砂払町) L = 280m W = 11.0m 羽場坂中村線(伊賀良運動公園通り) L = 2,000m W = 11.0m、 南信濃156号線(ヒョー越) L = 7,000m W = 4.0m、 上村1号線(しらびそ) L = 500m W = 5.0m 上村3号線(下栗) L = 500m W = 5.0m	・測量設計・用地買収・物件補償・工事施工・工事説明会 飯田514号線(砂払町) L = 10m、W = 11.0m 道路改良 羽場坂中村線(伊賀良運動公園通り) L = 1,000m、W = 11.0m 舗装補修 南信濃156号線(ヒョー越) L = 3,350m、W = 4.0m 舗装工事 上村1号線(しらびそ) L = 247m W = 5.0m 道路新設改良 上村3号線(下栗) L = 150m W = 5.0m 道路改良	施工箇所数(箇所)	5箇所
		・測量設計・用地買収・物件補償・工事施工・工事説明会 飯田514号線(砂払町) L = 100m、W = 11.0m 道路改良 羽場坂中村線(伊賀良運動公園通り) L = 660m、W = 11.0m 舗装補修 南信濃156号線(ヒョー越) L = 1,650m、W = 4.0m 舗装工事 上村1号線(しらびそ) L = 353m W = 5.0m 道路新設改良 上村3号線(下栗) L = 250m W = 5.0m 道路改良	施工箇所数(箇所)	5箇所

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	177,500	120,000
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	71,000	115,725
	その他		
一般財源	106,500	4,275	
事業費計(A)	355,000	240,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,760	19年度 680
	臨時職員等所要時間	20	20
	人件費計(B)	6,315	2,453
	トータルコストA + B	361,315	242,453

特定財源内訳や補足事項	交付金補助率50% 合併特例債 95%(飯田) 過疎債 100%(上村、南信濃)
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値				
	便利で安全に移動ができる。	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路)(%)	現状値	52.3	19実績		
			20実績		21実績		
				22実績		23目標	45
	市内の移動に不便を感じる市民の割合(交通機関)(%)	現状値	37.6	19実績			
		20実績		21実績			
22実績			23目標		35		

<p>この事業を開始したきっかけ 基幹となる市道を整備し、交通網の整備を図る目的で開始した。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化 自家用車の1戸当りの所有台数も増えている事、又、バス等の運行路線及び本数が減っている事等により、基幹的な道路の利用量が増えている。(1戸当りの乗用車保有台数が平成2年には1.6台が現在1.9台となっている。 平成17年度より地方道路交付金事業から市町村道、林道との組み合わせによる道整備交付金事業に移行した。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見 市民や議会からの改良に対する要望が強く早期完成が望まれている。</p>
--	--	---

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 通行車輛の利便性の向上と安全確保に結びつく。	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 交付金事業等への移行により、事業の促進を図る。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 緊急な整備が必要とされている。		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) スムーズな交通が出来なくなり渋滞の恐れがある。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 通行車輛の利便性の向上と安全確保が第一である。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由) 一部の事業において道整備交付金事業へ変更する。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 市道の改良である。		効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由) 工法の再検討により事業費の縮減を図る。
			公平性評価		(評価) 妥当である (受益者とその理由) 不特定多数の市民が利用する公共の道路であり負担金はなし。

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 → 具体化</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>地方道路交付金事業より移行し早期完成を目指す。</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>用地・物件補償交渉を早期に進めるとともに、道路構造について再検討する。</p>
---	--

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	